

会議の開催結果について

- 1 会議名 令和2年度第2回上尾市総合教育会議
- 2 会議日時 令和2年11月19日（木）
午前・午後11時00分から12時00分まで
- 3 開催場所 本庁舎3階 庁議室
- 4 会議の議題 (1) 不登校・いじめについて
(2) 教員の働き方改革の状況について
(3) その他
- 5 公開・非公開の別 原則公開
- 6 非公開の理由 ー
- 7 傍聴者数 0名
- 8 問い合わせ先 秘書政策課
(担当課)

会 議 録

会議の名称	令和2年度第2回上尾市総合教育会議	
開催日時	令和2年11月19日（木） 午前11時00分～12時00分	
開催場所	本庁舎3階 庁議室	
議長(委員長・会長)氏名	畠山 稔（市長）	
出席者(委員)氏名	池野和己教育委員会教育長、細野宏道教育委員会教育長職務代理者、中野住衣教育委員会委員、大塚崇行教育委員会委員、内田みどり教育委員会委員、小池智司教育委員会委員 石川稔 副市長	
欠席者(委員)氏名		
事務局(庶務担当)	秘書政策課	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 不登校・いじめについて (2) 教員の働き方改革の状況について (3) その他	(1) 説明のとおり了解 (2) 次回以降の議題とする (3) 説明のとおり了解
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者数 0名
会議資料	別添のとおり	
<p>議事の内容・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">令和 年 月 日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 _____</p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>		

議事の経過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
司会 (市長政策室長)	<p>本日は、お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。</p> <p>只今から、令和2年度第2回上尾市総合教育会議を開会させていただきます。私は本日の司会を務めさせていただきます、市長政策室長の石川と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは初めに、本会議の設置者であります畠山市長から挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>教育委員の皆様には、日々上尾の教育の発展のためにご尽力を頂き心から感謝申し上げます。</p> <p>さて、新型コロナウイルス感染症拡大はまだ終息していません。しかし、その中でも学校では授業が行われております。私たちは、目の前のコロナ禍に対応しながらも、この先も引き続き子供たちの学びを保障するための手立てを準備していかなければなりません。</p> <p>今回は、コロナ禍により、これまで以上に注意していかなければならない、不登校の問題、いじめの問題、そして教員の働き方に関する問題を話し合います。</p> <p>先日、いじめに関する重大事案の市長報告がありました。いじめは決して許されません。いじめを受けた側に寄り添って、前例にとらわれず、何ができるのかをしっかりと検討していただきたいと思ひますし、皆様の知見を活かしてもっと良い解決方法を見出していただきたい。そのように思っています。</p> <p>また、教職員の働き方については、各学校へ判断を任せるばかりではなく、教育委員会が先頭に立ってどんな仕事が必要なのかを示し、本業へ集中できる体制を作ってほしいと思ひています。</p> <p>今後も、皆さま方とも一層連携を強化していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いしまして、挨拶といたします。</p>
司会 (市長政策室長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、早速、要綱の定めにより議事を進行させていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>初めに、本会議の公開について、本会議は原則公開となっております。本日、傍聴を希望される方はいますか。</p>
事務局	<p>本日傍聴者はありません。</p>
市長	<p>「傍聴者なし」との報告がありましたので、会議を続行いたします。それでは、議題の(1)「不登校・いじめについて」の説明をお願いします。</p>
教委事務局	<p><別添資料のとおり></p>

(学校教育部長)	
司会 (市長政策室長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>一通り説明がありました。まず不登校の現状と課題について、意見交換をしたいと思います。何かありますでしょうか。</p>
市長	<p>資料1を見る限り、不登校が平成28年以降増えていると同時に、教育相談の件数も伸びている。不登校の要因は何か。</p>
教委事務局 (学校教育部長)	<p>多くのものが、精神的な不安です。その原因は様々ですが、学校に行くことができないという不安が大きかったり、生活状況が乱れて朝起きられないといったことがございます。個別的ではありますが、多くがメンタル的な面のものが多いと認識しています。</p>
市長	<p>いじめによって不登校になるというよりも、個々人の児童生徒のメンタル面が大きく影響しているという感覚で良いのか。</p>
教委事務局 (学校教育部長)	<p>そのように認識しています。</p>
教育長	<p>家庭の影響が大きい部分も多いですけども、国がまとめている、同じように学校に来られない子を、不登校と不登校以外に分ける。不登校以外というのは、病気による欠席です。経済的な要因によるものは本市においては0件です。</p> <p>もう一つの分類は、家庭の事情を含むというのがあるんですね。ただ、そここのところに入れるのか、不登校としてカウントするのか、校長の判断によって学校による差があることから、校長から上がってくるものについては、教育委員会の方で加えています。</p> <p>調べてみますと、学校教育部長の説明にあったとおり、一番多いのは確かに不安なんですけど、小学校と中学校で差がありまして、小学校の場合ですと不安が原因だというのが、上尾市の場合ですけども、60%です。それに対して、無気力という項目があるんですね。無気力に入るものが30%超となっています。小学校で。校長が保護者と話しをしながらですが、原因としては、無気力というのは、小学校でも既に30%ですが、中学校になるとさらに増えまして、今年度10月までですと、不安が53%。無気力というのが37%ですから、ほとんどが不安と無気力であり、いじめが原因で不登校になってということになると、重大事案になるんですけども、件数的には極々少ない状況です。</p> <p>先ほどの不登校の説明の中で、教育相談の数が多くなっていることはご理解いただけたと思いますが、本当に成果を上げてくれていて、このおかげで随分変わってきております。</p> <p>今回、資料では示しておりませんが、よく新聞等が出るのが、年度末の比較をして何人増えたということを出しております。これには教育的意味合いはほとんどありません。</p>

	<p>毎年度、中学3年生は卒業しますので、年度末の不登校の数は、年度の始まりには既に違う数字になってしまう。毎年度、スタートする時の人数が違うので、ただ単に年度末の人数を比べても意味が無い。不登校対策で最も大切なことは、とにかく新規の不登校者を抑えなくてはいけない。その新規増加を抑えること、もう一つは復帰できた子の人数を押さえておく必要があり、これは減少してきております。学校の努力が大きいと思います。しかし、学校の努力はあるにしても、教育センターのSSWの成果が非常に出ておりまして、学校復帰が大幅に増えてきております。上尾市の場合には本当に、教育センターに人的を配置していただいていること、それから各校長の方で、教育相談を充実させていただいたことがあって、不登校の方がかなり成果は上がっている。しかし、まだまだ減らせる方向にまでは達していない。何とか微減になるところに少しずつなってきたという状況です。ですから、不登校対策については、不登校になった子の治療、いわゆる治療だけでなく、不登校にならないようにするという、それはやっぱり学校の、魅力ある授業、このように言うところでも聞くような言葉ですけれども、それは本質を突いておりまして、子ども達が通いたいと思えるような学校を作っていくことが重要。それはもう学校が努力して、一人でも子ども達が不登校にならない様、やっぱり学校行ったら楽しかったと言ってもらえるような学校にしていかなければならない。ただ、どうしても家庭内での影響もあって、無気力で、なかなか学校に来られない子、ゲーム漬けになっている子、これに対して、SSWの方々が学校と連携しながら、一緒に家庭訪問とかしてくれて、そういう中で、少しずつ、少なくとも学校や、フリースクールも含めてなんですけど、居場所を家庭の中に引きこもっているのではなくて、社会性を身に着けるためにも出していくという努力を今しているところ。それがだいたい今の不登校の現状である。</p>
市長	<p>不登校は増えているけれども、今説明にあった、SSWの効果もあって、登校に繋がったものも増えている。</p>
教育長	<p>実際に戻ってきている子の人数もずいぶん増えている。</p>
市長	<p>魅力ある学校にしていかなければならない。</p>
教育長	<p>今年は、コロナ禍の中だったので、学校も行事を潰さざるを得ないことから、授業時数を確保しなければならない関係で、本当に子ども達には申し訳ない状況だったが、なんとか今年度乗り越えて来年度、良い方向に少しでも向かってほしい。学校行事は子どもたちが楽しく過ごす時間ですから、なんとか来年度はいつも通りのようになってくれれば良いとは思っている。今年は非常に子ども達も大変だと思う。先生達も大変ですけど。</p>
副市長	<p>生徒100人や1,000人に対しての不登校の発現率の割合を算出したことはありますか。</p>

<p>教委事務局 (学校教育部長)</p>	<p>算出しております。</p>
<p>副市長</p>	<p>埼玉県の平均と比べて高いのか低いのか。</p>
<p>教育長</p>	<p>平均よりも低い。今年度については、年明けに確定値が出るが、上尾市は平均より少し低いくらい。</p>
<p>中野委員</p>	<p>教育長が仰ったとおり、やはり不安だとか、本人に起因するもの、家庭環境もそうですけれども、結局、学校からはみ出してしまうことで、なかなかそういう子どもたちは、先生との関係も築けない、友達との関係も築けない。決まりや校則に馴染めないんですね。規律障害と言いますが。学校の中にはたくさんの約束がありまして、そういう中でついてくる。やはり、学校に復帰だとか、どこか家から一歩、居場所を作りたい。先ほど学校教育部長から説明があったとおり、何かその子にとって行ける場所、居場所が大切。今、話に出た教育センターというのは、学校適応指導教室というのがあり、そこに通級してくる子どもたちは、その中で規律があって、1日の学習をしたり、学習をしたり体験活動をしたり、様々なことを通して、学校に近づけている。それが一つ大きな成果であって、SSW と学校と家庭と関係機関を、教育センター以外のいろんなところと関係を作って、相互に寄り添う、そこに通級してくる児童生徒を増やしたいと思っている。やはり、居場所をどこに求めるかという、家庭の中でいるということは、子どもにとっても保護者にとっても、学校に行っても地獄、家にいても地獄、大変な状況だと思うのですね、最近もニュースの中で、不登校気味だったのか、おじいちゃんの家で預けられて、いろんなケースがあるけれども、いろんな居場所をこれからは考えていかないと考えております。</p>
<p>細野教育長職務 代理者</p>	<p>私は不登校に対して2つ考えがありまして、不登校になる原因と、なった後の原因を分けて考えるべきかと、常々思っておりました。不登校になる原因というのは、子どもたちが学校にいる時間と、学校に関係ない時間というのがある。学校に関係ない時間というのは、家庭であったり地域であったり、社会です。これは、学校が、教育委員会がコントロールできない時間です。それと、副市長のご質問にありましたけれども、上尾という場所がどういう場所なのかということに関わってくることでしょうから、これは議論の余地があります。そこを教育委員会だけで潰していくというのは難しいと思っています。</p> <p>なった後の対処として、以前から市長には随分お願いをして、実現をしていただきましたけれども、SSW というのは、なった後の対応としては、やはりケースバイケースであるということから、社会的な立地、経済状況、まわりの環境が違う方がほとんどですので、それに寄り添って、その人を学校に復帰させるのが良いのか、教育センターを利用した方が良いのか、いろんな手法を、この個々人に応じて何か最</p>

<p>市長</p>	<p>適なのか、1対1、あるいは少ない人に多くの手をかけていく必要があるので、教育委員会としてまずはSSWをしっかりやっていただきたい。資料のように相談件数の割合もずいぶん増えており、まだ一部ですけれども、この状況が良いとの判断も出ておりますので、今後は分けて議論をして、対処していくことが必要だと思っております。</p> <p>方向性は同じだと思うが、なかなか意味が分からない部分があり、メンタルを強くするためにはどうしたら良いのか、なんだろうと思う。ほとんどの子が学校に行きたくないだとか、あるいは何かが嫌だという、今、果たして、メンタルを強くするためのことはやられているのか。要するに、小さい、3歳児も5歳児も小学校1年生でもいいのだけれども、自分のメンタルを強くすることは、お母さんや先生に認められて、できたんだ、いいんだよということの、繰り返して、子どもってというのは自信がついてくるということだと思います。学校の今の状況の中で、いじめが増えた、問題が増えたと様々あって、SSW やいろいろやって、もう完全に根が絡まってしまい、何をやればよいのか。今言ったように、子どものメンタルの、ちゃんと会話で、それは悪いよ、良いよ、よくできたねと、そういう褒めたり、育てたり、育む、そういうことが今の中で、どうやったらできるのだろうか。子どもって、褒めて、スポーツでもそうでしょ。褒めてやればどんどん自分の力が発揮される。みんな分かっているはずだけれども、今の中で、それをするためには、複雑に絡まった部分をほぐしていかなければいけないことが一つと、そこに特化したやり方をやらないといけないのだろうなど。</p> <p>一つは、対策ではないが、印象として、体罰の問題がありましたよね。今までは、我々の経験から言っても、かなり厳しい先生がいることで、目標を達成している面もあったけれども、体罰は良くないという状況になって。今は学校に行っても子どもの自主性に任せていますからという言葉が返ってくるんですよ。スポーツをやっても、サッカーで応援しても、怒らないで、注意しないで、子どもの自主性に任せていると。その自主性とは何なのか。それは、子どもは勝手に生きるわけではないんですよ。育まなくてはいけないという。その育む時間が、地域なり学校なり、さっき言った子どもの居場所づくり、話を聞いてくれる、分かってくれる、そういうものが、なんとしても早くできれば良いかなと思っております。</p>
<p>内田委員</p>	<p>今年、不登校の子と関わることもあり、話をしたんですけれども、空にある雲と話しているような、そういう状態で、語っても返ってこない。きっと、SSWの方々は本当に苦労をされているなど凄く感じました。やはり、不登校に持って行かないための努力を学校全体で行っていかねばならないと感じた。</p>
<p>教育長</p>	<p>家庭も一緒にね。</p>
<p>副市長</p>	<p>学校に全ての責任を負わせる論調が強いと思いますが、家庭が第一</p>

<p>中野教育委員</p>	<p>義的には、生活の規律を教える場であると思う。</p> <p>その場で、お母さまやおばあさまが優しいのですよね、いろいろ努力なさって、学校まで送っていくなど、その優しさだけでは難しかったんだろうなど。厳しすぎてもだが、その塩梅だろうと。</p>
<p>副市長</p>	<p>いろいろな場面で、生きる力というか、市長が仰っているような、厳しさとか、逞しさとかが育てられていくことで、学校という社会に入っていくことで、なんとか順応できる力を養い、先生方から褒めていただいて、自己有用感や自己肯定感を高め、自分の力を発揮していく。そういう子どもに育てていくはずなんだけれども、もう最初から、SSWの方々が通っても、心を開いてくれない。いろんなパターンがあって、一口でこれをやれば不登校が治るというものではないのだけれども、ただ、そうは言っても、我々の頃に不登校がいたのかと言われると、ほとんど認知しないくらいであった。今は1クラスに何人もいるのが普通みたいになってしまって、やはり社会全体に、原因があるのだらうと思いますよね。</p>
<p>大塚委員</p>	<p>原因が不安であるという、この目では見えないものへの対策の成果も見えづらい。気持ちに寄り添うことが大切。</p>
<p>教育長</p>	<p>お父さん、お母さんの価値観も変わってきていて、もうすぐその時期が来るのですけれども、私立中学校を受験することとなったら、もう1か月くらい前から、もう学校には通わせないで、家で、インフルエンザの予防にもなるし、その受験に向けての家庭での学習を平然とやるので、学校に通わせませんと、上尾市内だって、全小学校にいるわけではないのですけれども、地域的に言うと上尾駅に近いあたりの小学校では普通のことのようになっている。ほんとそれについても如何なるものなのかと思うのですが、保護者はそれを当然のことと捉えているわけで、本当に価値観も大きく変わりました。</p> <p>市長が仰るとおり、鍛えなくてはいけない、だけど、新入社員も同じですけれども、打たれ弱いというか、ちょっとでも上司から、そんなに厳しく注意したつもりではなくても、注意されたから明日からは出社できませんと。子どもも同じ現象が起きている。引きこもりだっでご存じの通り、50歳の引きこもりがおり、その予備軍になってしまうので、何としても、学校教育の中で汲み取っていかないと将来的には大変な負担が各自治体を襲う。</p>
<p>市長</p>	<p>時代は変わっており、コロナでも変わっている。ICTによっても変わってきている。そこで強く生きていくためには、自分とはこんなものだ、自分の力はこの程度なのかと分かっているなければ、戦う意識も持てないし、ということは試験の結果がどうだとか、運動会の結果がどうだとか、よく話が出てくるけれど、遅いなら遅いと自分が認識するわけですよ。頭が良ければ良いで、それを認識するわけですよ。その中で我慢もできるし、いろんなことができるようになるのですよ。</p>

<p>細野教育長職務 代理者</p>	<p>それも何もないと、自分はなんなのだろうと、疑心暗鬼になってしま う。これから考える社会に向かっていくには、もう実力のあれだから、 自分でなんでもできるような体制をシュミレーションする必要がある 。</p> <p>社会が裕福になるスピードの方が、人間が裕福と感じる感覚のスピ ードよりも速くなってきている。ですから、学校に行けば給食が食べ られるということを幸福に感じていた時代は、もう既に終わって、学 校はインフルエンザに感染するから行かないということを家庭も認め ている時代で、今はこれを変える過渡期なのかなと。</p>
<p>中野委員</p>	<p>学校が楽しければという話があったが、ここ何年か、学校関係者か ら聞いた話だと、コロナで長い休校がありましたよね、その後に不登 校の子が学校に来ているという話を聞いた。今、学校に行くことは面 倒だが、楽しいと思ってくれている。</p>
<p>教育長</p>	<p>いつも全然来なかった子が、登校し始めたのです。</p>
<p>市長</p>	<p>そういう気持ちがあるということ。</p>
<p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>今、不登校の要因が、いじめというの少ないということでしたが、 そういう中でも、いじめの問題は非常に重たい課題でございますので、 いじめの現状につきましても、先ほど学校教育部長から説明いただき ましたが、いじめにフォーカスして意見交換をさせていただきたいと 思います。</p>
<p>副市長</p>	<p>いじめについては、いじめ認知件数が増えることは非常に良いこと だと思ふ。SSW も担任の先生方も含めて、多くの方々が関わっている ことは非常に良いこと。そういう意味では、認知件数が多いことには 驚いていないが、認知したものが特に、からかい程度、悪口程度、人 間が通常育っていく過程でいじめられたら、いじめる程度のものなら 良いですが、重大事案で命に関わるような、お金を恐喝するとか、命 に関わる重大なものは放置できない。私の気持ちとしては重大と捉え るかどうかは学校の先生方によるのだと思いますが、ぜひ学校という 組織を挙げて、担任の先生にお任せするのではなく、学校全体で校長 を筆頭にですね、この学校はがっちりスクラム組んで、学年主任から しっかり見られていると、全教員から見られている感じがして、これ 余計なことをすると失敗するなとか、よく分かるので、ぜひ、ご存じ だと思いますけど、学校を挙げて何年何組の誰々のことを全教員が対 応するということが必要かなと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>いじめが難しい問題であることは分かっているが、件数が増えっぱ なしでは問題。どうすれば解決できるのか。</p>
<p>教育長</p>	<p>市長が仰った通り、いじめとして認知された件数は増えているが、</p>

今回の新聞では論調に変化があった。文科省が発表したことに対して、非常に好感を持って書いてありました。というのは、認知件数が増えたのは、重大事態が増えたというよりも、些細なことであっても学校が全体として共通理解して、それを教育委員会に報告している先生が増えたものということ。いじめ自体が増えているというよりも、まだまだ些細なことでも上げてくれないという状況があるのだと思います。学校の現場はどうかというと、まだ上げてくれないのです。私も校長会議で、とにかく約束事を決めておりまして、保護者に連絡を取った案件、電話であろうと家庭訪問であろうと、来校いただこうと、いじめかじめじゃないかではなくて、必ず教育委員会に報告してくださいと言っています。本当に小さな、我々が小さなころにあったような、いちいち1枚のペースで上げては事務も多くなるので、月1回の頻度ですが、様式を3つに分け、報告してもらっています。これは徹底するよう言っており、上尾市が南部区事務所管内で認知件数が最も少なかった。では、本当にこんなに少ないのかと、先生方に言ったのです。ぜひお願いしたいと。教育委員会が共通に知らなくて、重大事案になったら困るんだと。とにかく出してくださいと。

伊奈町の件数が非常に多かったのですが、これは学校で作ったものを全て上げてきているとのこと。上尾市の場合は精査している。市町村により違いがありますが、こういった努力によって、少しずつ認知件数は増えてきているのですけれども、それでもまだ私に言わせれば、校長先生がもっと上げてきて良いのではないかと思っている。中学校も認知件数上がってきている。かつては、教育委員会に報告するなんてとんでもないことだと、先生方が思っている既成概念を変えてもらって、一緒に共通理解しておかなければならないと思っている。あと、重大事案になって市長に報告している、長期に学校に通えなくなっているものが重大事態ですから、上げさせていただいているのですが、これには時間がかかります。保護者の理解を得られる前に学校不信になっている場合が多いものですから、これを何とか解きほぐして、教育センター等にも力を発揮してもらっている。先ほど副市長が仰った、恐喝や、はっきりした暴力は、場合によっては傷害事件になるような、このようないじめというのは大変な問題なので、少なくともこういった小さいものから報告してもらって、学校で抱え込まないで、必ず教育委員会と一緒にいってという体制をこれからも進めていかなければならないと思っています。

副市長

大きな組織になればなるほどそうで、例えばこの市役所でも各課で様々なミスがあるわけです。ミスは何とか自分たちの課だけで解決してしまおう。失敗したことが市長の耳に入ると、当然そのようなことは無いのですが、駄目な課長という評価になるのではないかと。どうしても隠蔽体質というか、出てくるので、いじめなんかは恥ずかしいことではないので、発見したら報告し、うやむやにならないようにすることが大切です。

市長	<p>数値データが無ければ検討の余地がない。上で全部決めて、さあやってくださいだけで済むのであればいいのだが、こういった会議をやっているのに、数値データがなければ対策も決めることができない。</p>
教育長	<p>不登校の人数について、国の調査では、一度不登校としてカウントされたら、実際には復帰したにも関わらず人数はそのままです。だから現状を把握できていないのです。実際にはクラスに戻っているのだから、全体から減れば良いのですが、1回30日以上欠席になった子は最後までずっとその人数でやっているのです。年度末だけ比べても意味を為さないのです、実態を把握することが、解決への第一歩になる。</p>
市長	<p>より詳細なデータを用意し、それぞれの問題が結論に至るような会議にしたい。</p>
教委事務局 (学校教育部長)	<p>資料が雑駁だったので、より詳細なデータを用意します。</p>
市長	<p>要するに、本当にいじめの問題とか、不登校の問題とかを上尾の問題として、どう解決するかという意識があるかないかです。県がこうだ、全国がこうだ、だから上尾は平均の上や下ということだけで良いのか。子ども達が無気力だとか精神的に参っているから、いじめだとかに向かいやすい、その土壌をどう直していくか、そのために何をやっていくか。要はそこに何か打ちたい。処方箋を打ちたい。</p>
教委事務局 (学校教育部長)	<p>教育長が校長会議で説明しておりますが、魅力ある学校にするためには、子どもたちの精神的な部分がどうして弱くなってしまうのか、それはコミュニケーションを取る力が非常に弱いという点が顕著であります。そこをどうにか体験的な活動とか、特別活動と言われるものですが、ここをぜひ充実させてほしい。中学校でも今度グローバルシチズンシップを受けて、学校教育なので処方箋のようにはいかないですが、どういう教育活動を展開していくと、そのような子どもたちが育ちやすいというかという議論が必要だと思っています。</p>
市長	<p>今までの流れから言うと、よく分かります。ただ、我々は何のために会議をやっているのか。資料があって、取り組み内容が具体的にあって、進めていかないといけないのではないかと。</p>
教育長	<p>いじめ問題については、校長に他の市町村も含めて、このくらいの件数で認知件数が出ているのだということを伝え、遠慮しないで先生方、多く上げると教育委員会から怒られるのではないかとというようなことは無いので、教育委員会も共通理解をしていく必要があるのだから、認知した件数はきちんと報告していただきとお願いしているところ。</p>

<p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>事務局も会議の持ち方、設定の仕方、進め方等に課題があったので、今後の会議では修正してまいりたい。教育委員会と市長部局とで連携していきたい。</p> <p>本日、議題の2番目で「教員の働き方改革」について課題としておりましたが、大変恐縮ですが、時間の関係で次回以降の総合教育会議に繰り延べさせていただきたいと存じます。大変申し訳ございません。</p> <p>続きまして、その他でございますが、事務局から何かありますか。</p>
<p>教委事務局 (教育総務部長)</p>	<p>GIGA スクール構想の進捗状況について説明させていただきます。児童生徒1人に対してパソコン1台整備するもの。早期実現を図るため、今年度6月補正予算で、パソコンのリース経費ですとか、ネットワーク機器設置の費用、9月補正予算で充電保管庫ですとか、障害のある児童生徒への入力支援装置、音声読み上げシステムや、音声文字変換システムの整備費用ですとか、GIGA スクールサポーターの費用を計上したところです。</p> <p>進捗状況ですが、現在、パソコンのリース業者、充電保管庫の請負業者が決定しましたので、パソコンにつきましては1月にリースし、充電保管庫については来年1月中の納品ということで、2月からの稼働に向けて準備を進めているところでございます。</p>
<p>教委事務局 (学校教育部長)</p>	<p>今後の幼児教育のあり方についてでございますが、平方幼稚園の保護者の方や、議員の皆さんからもご質問をいただいているところですが、人間形成の基礎が培われる大変大事な教育の時期ということで、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校等、連携していくことは、大変重要なことと認識しております。そのため教育委員会といたしましては、上尾市総合計画や、上尾市教育振興基本計画に幼児教育を位置づけるほか、幼児教育振興協議会の充実や合同研修会の継続的な実施を図る中で、関係者と十分に連携を図ることができるように、支援を推進してまいりたいと考えております。</p>
<p>教委事務局 (教育総務部長)</p>	<p>教育振興基本計画については、教育委員会内、各部長、次長、課長、小・中学校の校長代表からなる教育振興基本計画策定員会を2回開催。各課担当者、小中学校の主幹教諭からなる作業部会を2回開催するなどして、基本方針、基本目標の検討を進めているところです。</p> <p>来週以降、改めて作業部会、策定員会を開催したいと考えており、来年、次回の総合教育会議でその内容について説明させていただきます。</p>
<p>市長</p>	<p>このGIGA スクール構想について、その指導力について、子どもにとってスムーズに身につくよう、その辺を考えていく必要がある。</p>
<p>副市長</p>	<p>来年度予算の考え方の整理が始まっているところであるが、全て先生方に押し付けてしまうのではなく、荷が重いということであれば、ITのノウハウを教えていただけるようなボランティアを募集し、そういった方々のご尽力をいただいて、学校で活用していかなければ、先</p>

<p>細野教育長職務 代理者</p>	<p>生方への負荷が大きい。英語だけでなく情報の技術を教えなければならず大変だろうと思う。そういう意味では、様々な方法を考える必要がある。</p> <p>機械は用意されたが、置いておくだけでは何の意味もない。宝の持ち腐れにならない工夫をすること。財政面も厳しいので、ボランティアでご協力いただくという話があったということを紹介する。</p> <p>今のご発言は大変嬉しく思う。働き方改革にも関係するが、これまでの先生は、読み、書き、そろばんを教える人だと思っておりました。ところが、今はいろいろなところがあって、出席の状況が悪い子に連絡を取るとか、先生でない人がやる仕事が多くありすぎる。その中で、GIGA スクール構想が出てきて、パソコンというハードの物を、どういうもので、どう使いこなしていくのか、学校の中でどう使えばベストなのかを考えれば、それ専門の人を配置して、こう使えばよいのではないかとアドバイスをする。このような方策もある。</p>
<p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>他にない様であれば事務局からお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料作成において、事務局の調整不足があり申し訳ありません。</p> <p>次回の会議の予定でございますが、年明け1月21日の定例教育委員会に併せて開催したいと考えております。議題としては、「幼児教育のあり方」について議論を賜ればと存じます。また時期が近くなりましたら、ご連絡申し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>事務局から説明がありましたが、何かご質問はございますか。</p> <p>特に無いようでございますので、これで議事はすべて終了いたしました。皆様のご協力ありがとうございました。</p> <p>それでは、会議の閉会にあたり、教育委員会を代表いたしまして、池野教育長からご挨拶をいただきたいと存じます。</p>
<p>教育長</p>	<p>第2回目の総合教育会議ということで、市長、副市長と多くの意見交換ができた。年明けに第3回目ということですが、総合教育会議も回数を重ねてきまして、どう進めていくべきなのかということも含め、考えて進めていければと思う。報告的なことよりも、教育委員と市長がフランクに話をするような会議でも良いのではないか。テーマを設定するなかでも、焦点を絞る必要がある。働き方改革という問題は公務員だけではない。また、事務局でも検討いただきたい。本日はありがとうございました。</p>
<p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>ありがとうございました。以上で令和2年度第2回上尾市総合教育会議を閉会いたします。</p>